これだけは知ってコースへ

マンガで覚えよう

2019年度版

知らないと恥ずかしい最低のマナーとルール

ゴルフ規則の本質と精神について

数あるスポーツの中でゴルフ競技の大きな特徴の1つは、通常、審判員が立ち会わないということです。

このことは、ゴルフがフェアプレーを重んじるスポーツであって、「ゴルファーは皆誠実であり、故意に不正を犯す者はいない」という基本的な考え方を表しています。

またゴルフ規則書に規定されている罰則は、ゴルフ規則を知らなかったり過失によってその処置を誤ったプレーヤーに対して、競技全体の公平さを図る観点から決められています。

つまり、ゴルファーの一人一人には、ゴルフ規則を正しく理解し、自主的に規則を守ることが求められているのです。

ゴルフの基本は、「球もコースもあるがままでプレーする」ということです。

しかし、コース上では、「あるがままでの状態でプレー」できない状況にしばしば遭遇します。

例えば:球がOBに飛んでいったり、ペナルティーエリアに入ったり、排水溝に入ったり、他のプレーヤーが間違って球を打ってしまったり…等々。

そのような場合には、最もフェアと思う処置をとってプレーを続けるべきです。

そしてそのためには、ゴルフ規則を知っておく必要があるのです。

Contents

エチケット……2～3
スタート前に……3～5
コース上では……5～6
定義されたコースエリア……7
ルースインペディメント……8～9
球はあるがままにプレー……9
球を拾い上げること、故意に球に触れること、
球を動かす原因となることに対する罰……10
ストロークと距離の救済、紛失球、アウトオブバウンズ…10
球は正しい方法でドロップ……11～12
異常なコース状態……13～14
ペナルティーエリア……15～16
アンプレヤブル……17
暫定球……18～19
球に対する処置……19～20
旗竿……20

●項目番号の記載例(R～) R＝規則の略

エチケット

コースへ出たならば、他人に対する思いやりを忘れないことが大切です。

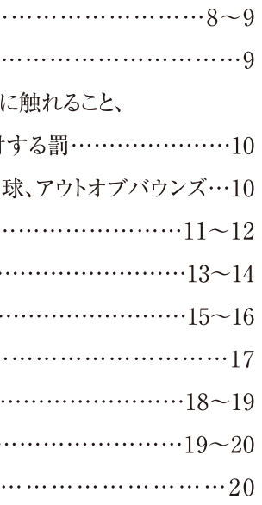
1.人が球を打とうとしているときは、動いたり、話をしたり、真後ろや近くに立たないこと。

2.前の組が自分の打球の届かない所に行くまでプレーしないこと。

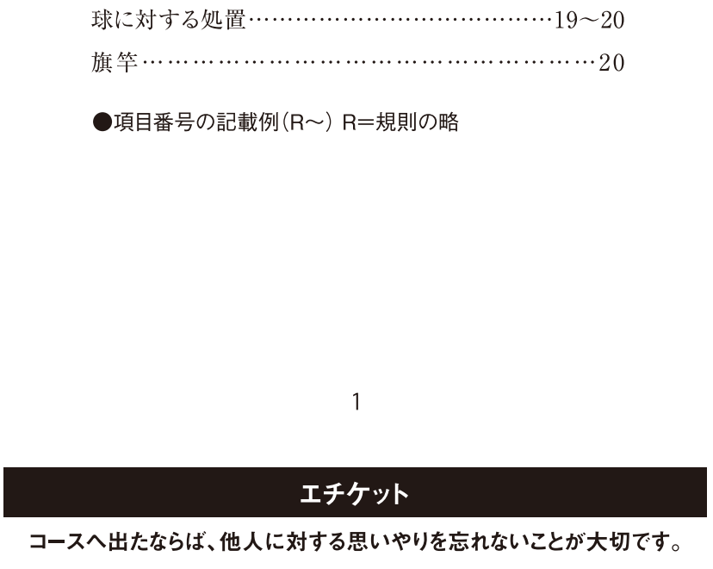
3.常に迅速にプレーすること。あなたの組の全員がホールアウトしたら、旗竿はホールの中心に真っ直ぐ立て直し、速やかにグリーンを離れること。不当に遅らせないこと。(R5.6)

4.プレーが遅れた場合は、前の組に追いつくようにすること。追いつけない場合は後続組をパスさせること。

5.切り取った芝は元に戻すこと。バンカーの足跡はならすこと。自分のプレーで作った穴や足跡は後続のプレーヤーの為にプレー前の状態に戻しておくこと。



前の組と開いてしまった!!
急ごう。

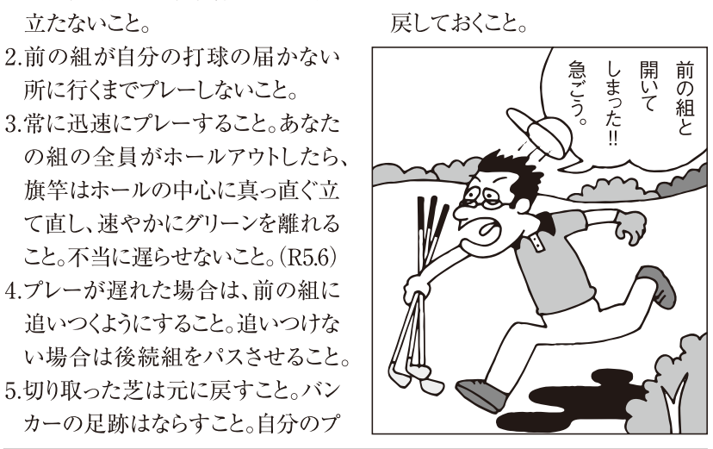


危ない!!
ティーイングエリアのそばでの素振りは危険だよ。
ブン
ビュン

6.人のプレーの線を踏まないように注意すること。

7.特にグリーン上では、クラブなど落としたり、クラブを杖替わりにしたり、靴を引きずって歩いたりして、傷をつけないように注意すること。

8.ラウンドはハーフ2時間、合計4時間で終了するよう、迅速なプレーを心掛けること。



ナイスオン!! ベタピンだよ。
ハハハハハハ。
直していってよ。
取ったターフはキチンともとに戻してネ。

スタート前に

1.クラブは14本まで持ってラウンドできます。通常は損傷したり、紛失したクラブを取り替えることはできません。(R4.1b)

2.プレーヤーはティーイングエリアからスタートした同じ球でホールアウトしなければなりません。プレーヤーはプレーしようとする球に識別マークを付けましょう。(R6.3a)

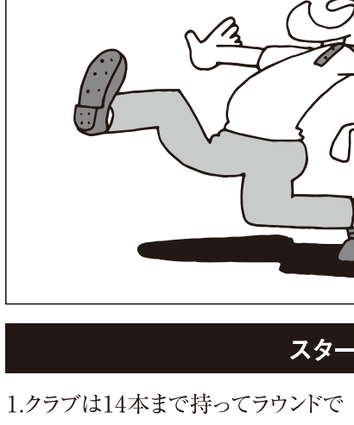
3.ティーマーカーの後方2クラブまでの範囲がティーイングエリアで、このエリアから各ホールをスタートしなければなりません。(R6.1b)

全員がスタートした後は、ホールから遠い球からプレーします。但し、間違いなく安全を確保できる場合、違う順番でプレーすることができます。(レディーゴルフ)そのホールで一番スコアの少ない人が次のホールのオナーとなります。(R6.4b)

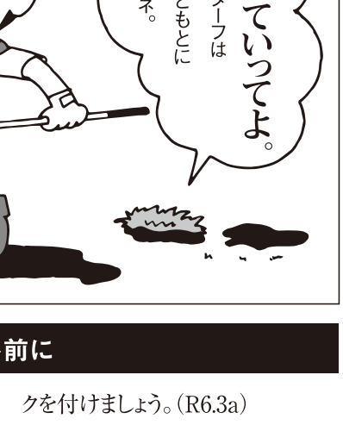
4.ラウンド中、自分のキャディー以外の人にアドバイスを与えても、求めてもいけません。(R10.2a)

5.これからプレーするコースをスタートする前には、倶楽部のローカルルールを確認しましょう。

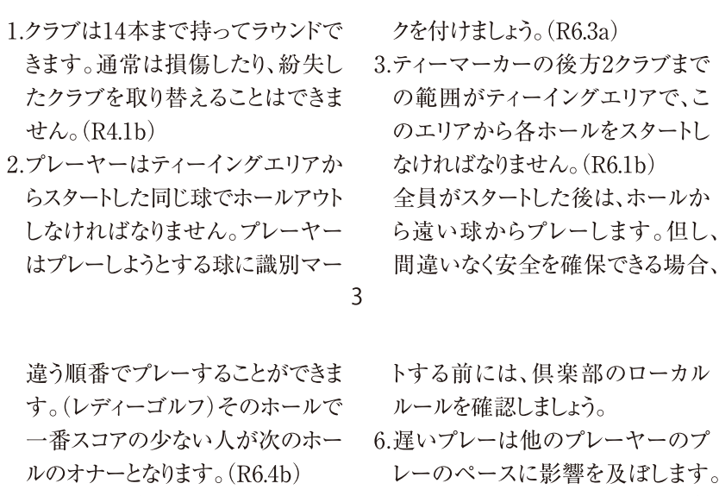
6.遅いプレーは他のプレーヤーのプレーのペースに影響を及ぼします。速やかなペースでプレーしましょう。不当の遅延には違反の罰がつきます。(R5.6a)つかないように注意しましょう。



お客さん!! クラブは14本までですよ!!



必ず自分の球には印を付けよう。

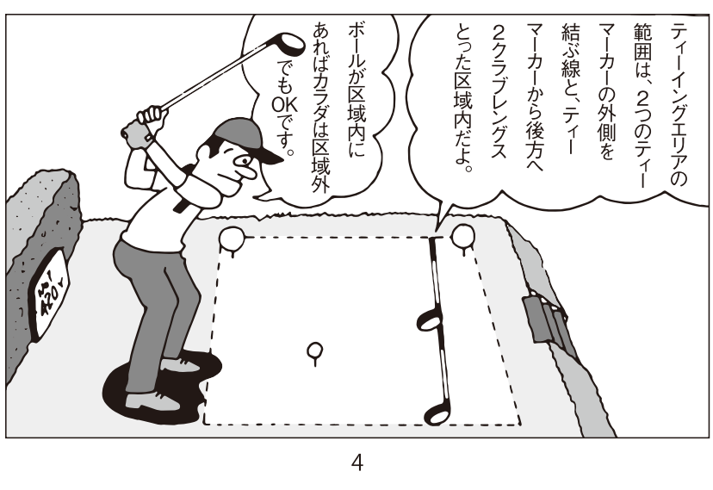


ティーイングエリアの範囲は、2つのティーマーカーの外側を結ぶ線と、ティーマーカーから後方へ2クラブレングスとった区域内だよ。
ボールが区域内にあればカラダは区域外でもOKです。

球をプレーするとき

1.コースはあるがままにプレーする球はあるがままでプレーすることがゴルフの基本です。(R8,R9)

2.もし、誤球(自分のインプレー以外の球を打つこと)した場合は、一般の罰(2打)で自分の球(正球)を打ち直さなければ競技に失格します。(誤って打った球は元の位置に戻しておきましょう)この場合、誤球をプレーした打数は計算されません。誤球しないように自分の球には、名前や印を入れておきましょう。(R6.3a、R7.2)



アッ!!
それは僕の球だよ!!
あんたの球はここにあるよ。
間違わないように目印をつけておいてよ。
2打罰を加えて打ち直し。

コース上では

1.コース上では、あるがままにプレーしなければなりません。球のライや、スタンス区域や、スイング区域や、プレーの線や、ドロップまたはプレーすることになる救済エリアを改善してはいけません。(R8)

2.プレーヤーはストロークに影響を及ぼす状態が改善されてしまう場合には次の行動をとってはいけません。(R8)

＊生長または付着している自然物、動かせない障害物、不可分な物、境界物を動かしたり壊したりすること。

＊ルースインペディメントや動かせる障害物を所定の位置に置く。(例えば、スタンスの場所を作るため)

＊地面を変える。

＊砂やバラバラの土を取り除く、または押し付ける。

＊露、霜、水を取り除く。

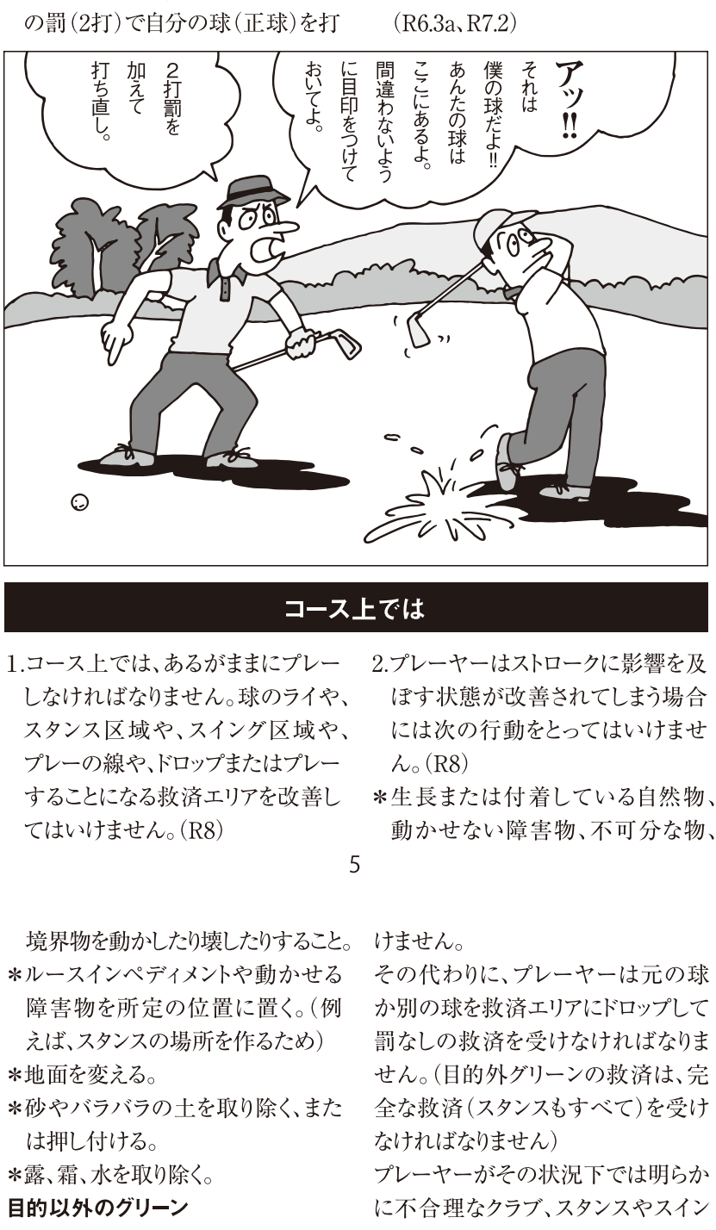
目的以外のグリーン

他のホールのグリーンや予備グリーンによる障害がある場合、プレーヤーはその球をあるがままにプレーしてはいけません。

その代わりに、プレーヤーは元の球か別の球を救済エリアにドロップして罰なしの救済を受けなければなりません。(目的外グリーンの救済は、完全な救済(スタンスもすべて)を受けなければなりません)

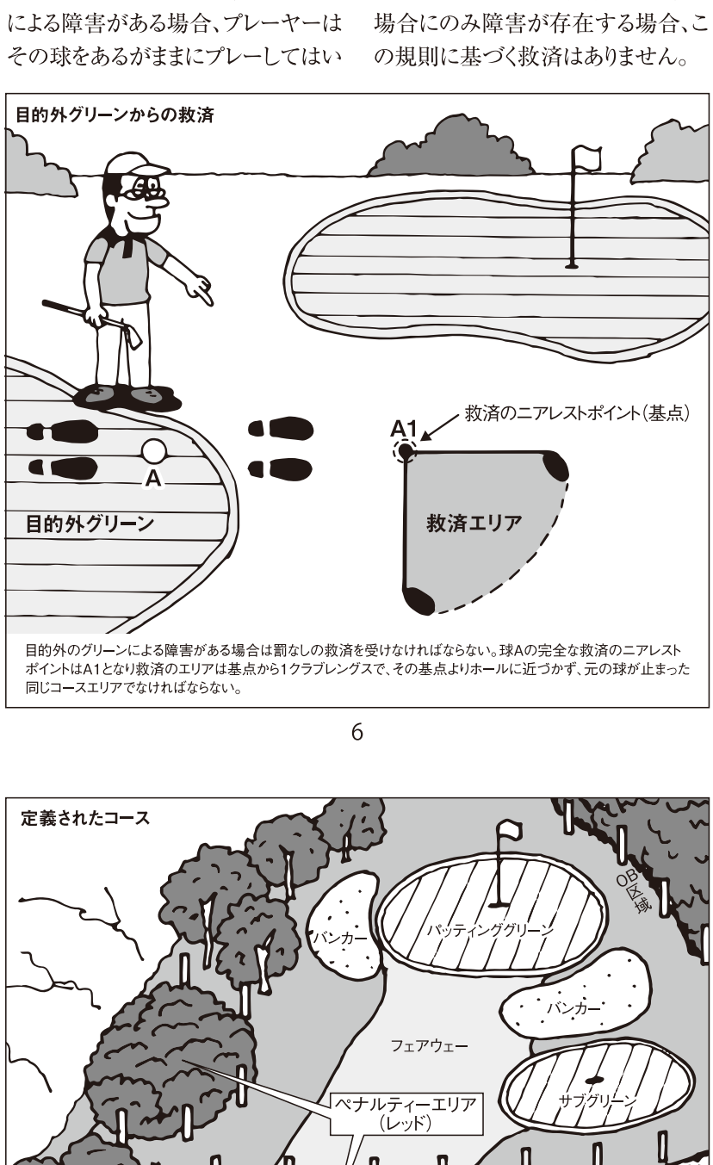
プレーヤーがその状況下では明らかに不合理なクラブ、スタンスやスイングの種類、プレーの方向を選択する場合にのみ障害が存在する場合、この規則に基づく救済はありません。

目的外グリーンからの救済



目的外のグリーンによる障害がある場合は罰なしの救済を受けなければならない。球Aの完全な救済のニアレストポイントはA1となり救済のエリアは基点から1クラブレングスで、その基点よりホールに近づかず、元の球が止まった同じコースエリアでなければならない。

定義されたコース



ジェネラルエリアは次以外のコース全体を扱っています。
●ティーイングエリア●ペナルティーエリア
●バンカー●パッティンググリーン

ルースインペディメントとは

●分離した自然物

例えば:

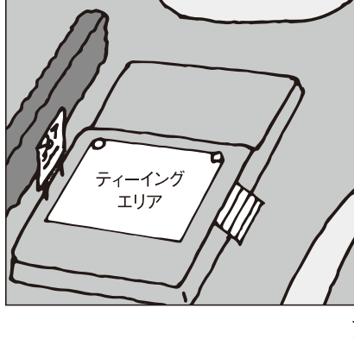
＊石、分離した草、葉、枝、小枝。

＊動物の死骸や排泄物。

＊ミミズ、昆虫や簡単に取り除くことができる類似の動物、そしてそれらが作った盛り土やクモの巣。(例えば、ミミズの放出物や蟻塚)そして、

＊圧縮された土の塊。(エアレーションプラグを含む)

ルースインペディメント



●ルースインペディメントではない物

＊付着している、または生長している。

＊地面に固くくい込んでいる。(つまり、簡単に拾い上げることができない)

＊球に貼り付いている。

特別な場合:

＊砂、バラバラの土はルースインペディメントではありません。

＊露、霜、水はルースインペディメントではありません。

＊雪と自然の氷(霜以外)は、プレーヤーの選択で、ルースインペディメントか、または地面の上にある場合は一時的な水のいずれかとなります。

＊クモの巣は他の物に付着していたとしてもルースインペディメントです。(用語の定義)

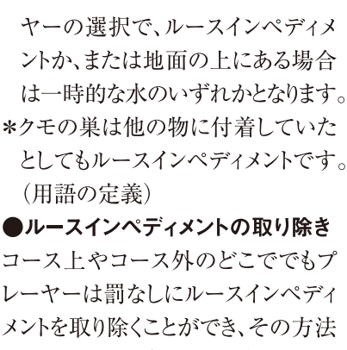
●ルースインペディメントの取り除き

コース上やコース外のどこででもプレーヤーは罰なしにルースインペディメントを取り除くことができ、その方法は問いません。(例えば、手、足、クラブ、その他の用具を使用する)

しかし、次の2つの例外があります。

例外1ー球をリプレースしなければならない場所にあるルースインペディメントを取り除くこと。(R15.1a)

例外2ー動いている球に影響を及ぼすルースインペディメントを故意に取り除くこと。(R11.3参照)



あっボールが動いてしまった。
ルースインペディメント

1罰打付加してもとの位置に球をリプレースする。(グリーン以外で)

●ルースインペディメントを取り除いているときに球が動く

プレーヤーがルースインペディメントを取り除いたことが自分の球を動かす原因となった場合、その球を元の箇所にリプレースしなければなりません。(分からない場合は推定しなければなりません)その動かした球がパッティンググリーン、またはティーイングエリア以外の場所に止まっていた場合、そのプレーヤーは1罰打を受けます。(15.1b)

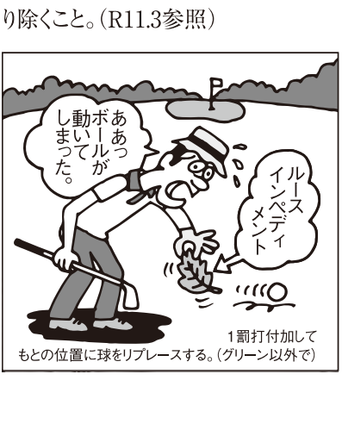
●動かせる障害物からの救済

コース上やコース外のどこででもプレーヤーは罰なしに動かせる障害物を取り除くことができます。その方法は問いません。

プレーヤーの球が動かせる障害物を取り除いている間に動いた場合、罰はありません。

そして、その球を元の箇所にリプレースしなければなりません。(分からない場合は推定しなければなりません)(15.2a)

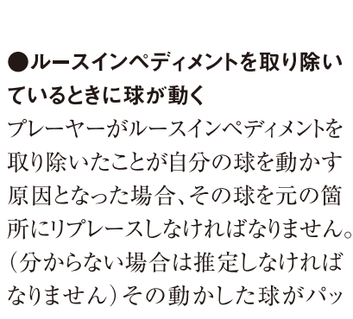
動かせる障害物



レーキ
ビニール袋
ペットボトル・ビン・缶
吸い殻
OB以外の抜ける表示杭
雑誌

球はあるがままにプレー

＊プレーヤーの球が止まり、その後、風や水などの自然の力によって動かされた場合、そのプレーヤーは通常は新しい箇所からその球をプレーしなければなりません。



外的影響が球を動かした場合は無罰でリプレース(R9.6)

＊プレーヤーの止まっている球が、ストロークが行われる前に誰かに、または外的影響によって拾い上げられたり、動かされた場合、その球は元の箇所にリプレースしなければなりません。

＊プレーヤーは止まっている球の近くでは慎重に行動するべきであり、プレーヤーが自分の球や相手の球を動かす原因となった場合は通常は罰を受けることになります。(パッティンググリーンを除きます)(R9)

球を拾い上げること、故意に球に触れること、球を動かす原因となったことに対する罰

プレーヤーが止まっている自分の球を拾い上げたり、故意に触れたり、動かす原因となった場合、プレーヤーは1罰打を受けます。

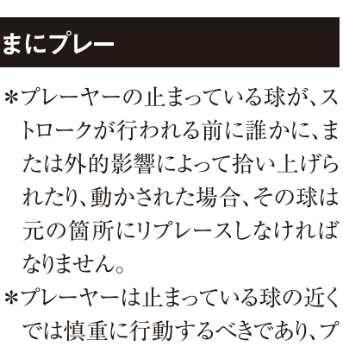
しかし、プレーヤーが罰を受けない4つの例外があります:

例外1ープレーヤーが球を拾い上げたり、動かすことを認められている場合。

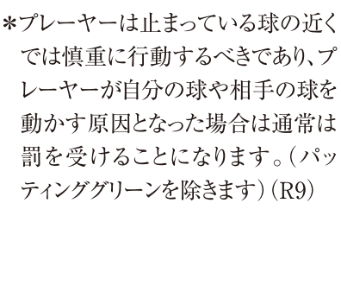
例外2ー球を見つける前の偶然の動き。(球を捜している際など)

例外3ーパッティンググリーン上での偶然の動き。

例外4ー規則を適用している間のパッティンググリーン以外の場所での偶然の動き。



プレーヤーが動かす原因となった場合、1罰打でリプレース

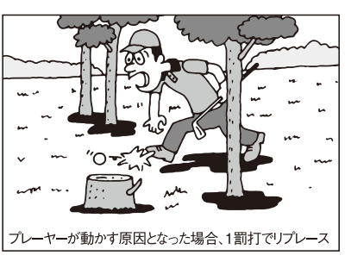


パッティンググリーンでの偶然の動き：無罰でリプレース

ストロークと距離の救済、紛失球、アウトオブバウンズ

いつでも、ストロークと距離の救済を受けることができます。(元の位置から)プレーヤーやそのキャディーが球を捜し始めてから3分以内に見つけることができなければ、紛失球となります。

球が紛失、またはアウトオブバウンズとなった場合、プレーヤーは、1打の罰を加え、直前のストロークを行った所から球をプレーすることによってストロークと距離の救済を受けなければなりません。(R14.6参照)



球捜しは3分以内で
捜索中に偶然に球を動かした場合：無罰でリプレース

球は正しい方法でドロップ

プレーヤーは球を正しい方法でドロップしなければならず、次の3つのすべてを満たさなければなりません。

1.プレーヤー自身がドロップしなければなりません。(プレーヤーのキャディーやその他の人はドロップすることはできません)

2.プレーヤーは次の要件を満たすように球を膝の高さから放さなければなりません。

・プレーヤーが投げたり、回転をかけたり、転がしたりせずに、または球が止まることになる場所に影響を及ぼす可能性のあるその他の動きをせずに、球を真下に落下させます。

・球が地面に落ちる前にそのプレーヤーの体や用具に触れてはいけません。

「膝の高さ」とは、真っすぐ立ったときのプレーヤーの膝の高さのことです。

3.球は救済エリアにドロップしなければなりません。プレーヤーはその球をドロップするとき、その救済エリアの中または外に立つことができます。

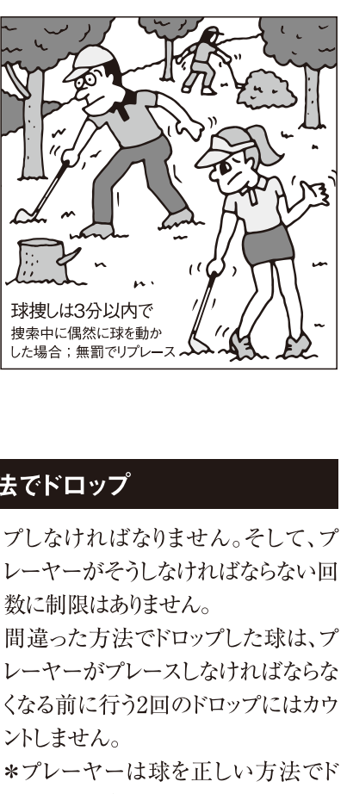
上記3つの要件のどれかに違反して球を間違った方法でドロップした場合、プレーヤーは正しい方法で再びドロップしなければなりません。そして、プレーヤーがそうしなければならない回数に制限はありません。

間違った方法でドロップした球は、プレーヤーがプレースしなければならなくなる前に行う2回のドロップにはカウントしません。

＊プレーヤーは球を正しい方法でドロップし、救済エリアに止まったときにだけ救済を完了したことになります。

球が地面に落ちた後で止まる前に、人、用具または他の外的影響に触れたかどうかに関係なく、

・球が救済エリアに止まった場合、プレーヤーは救済を完了したことになり、その球をあるがままにプレーしなければなりません。



ヒザの高さからのドロップ

・球が救済エリアの外に止まった場合、「正しい方法でドロップした球が救済エリアの外に止まった場合」には、プレーヤーは正しい方法で2回目のドロップをしなければなりません。その球が再度救済エリアの外に止まった場合、そのプレーヤーは、

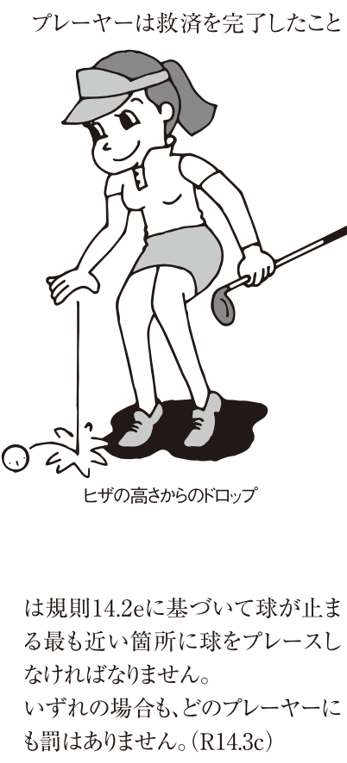
＊2回目にドロップしたときにその球が最初に地面に触れた箇所に球をプレースしなければなりません。

＊プレースした球がその箇所に止まらない場合、プレーヤーはその箇所に2回目のプレースをしなければなりません。

＊2回目にプレースした球がその箇所にまた止まらない場合、プレーヤーは規則14.2eに基づいて球が止まる最も近い箇所に球をプレースしなければなりません。

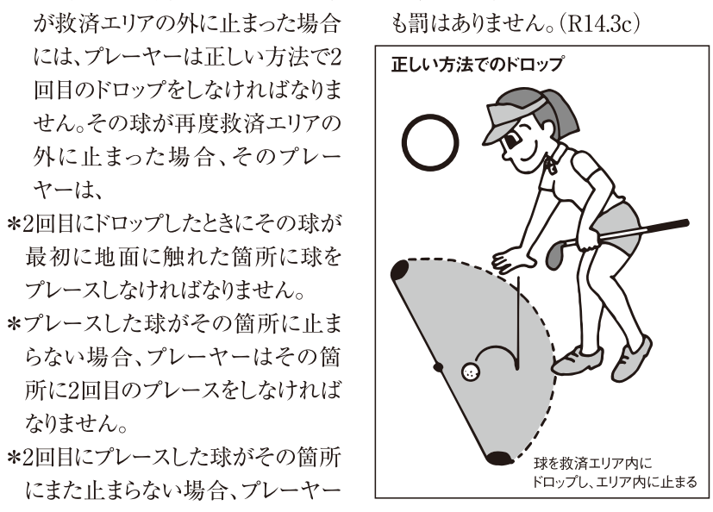
いずれの場合も、どのプレーヤーにも罰はありません。(R14.3c)

正しい方法でのドロップ



球を救済エリア内にドロップし、エリア内に止まる

正しい方法でドロップしなければならない



球を救済エリア外にドロップした場合

球が救済エリア外に出て止まった場合

異常なコース状態

この規則は動物の穴、修理地、動かせない障害物、一時的な水による障害に対して認められる罰なしの救済を扱っています。

これらは総称として異常なコース状態と言われていますが、それぞれには別々の定義があります。

●救済が認められる場合

次の場合、障害が生じています。

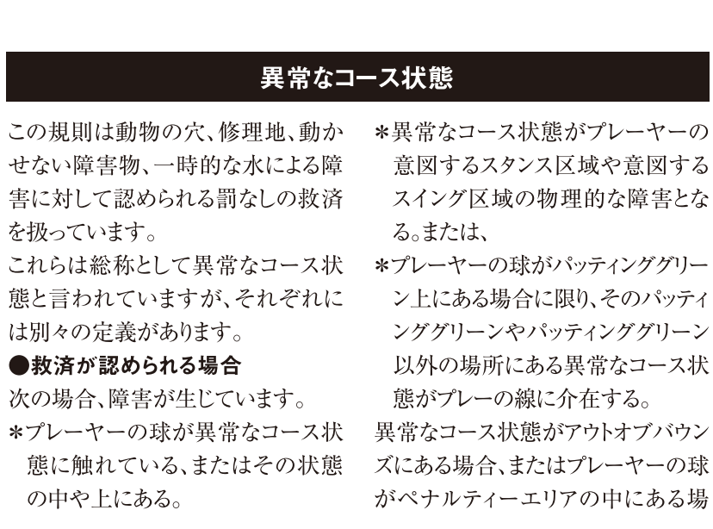
＊プレーヤーの球が異常なコース状態に触れている、またはその状態の中や上にある。

＊異常なコース状態がプレーヤーの意図するスタンス区域や意図するスイング区域の物理的な障害となる。または、

＊プレーヤーの球がパッティンググリーン上にある場合に限り、そのパッティンググリーンやパッティンググリーン以外の場所にある異常なコース状態がプレーの線に介在する。

異常なコース状態がアウトオブバウンズにある場合、またはプレーヤーの球がペナルティーエリアの中にある場合は異常なコース状態からの罰なしの救済はありません。

異常なコース状態からの救済



異常なコース状態に球がある場合：無罰で救済エリア内にドロップ

球をプレーすることが明らかに不合理な場合、救済はありません。

●次の場合、救済はありません。

＊その異常なコース状態以外の理由で球をあるがままにプレーすることが明らかに不合理な場合。(例えば、プレーヤーが動かせない障害物の上に立っているが、球がブッシュの中にあるためにそのプレーヤーがストロークを行うことができない場合)

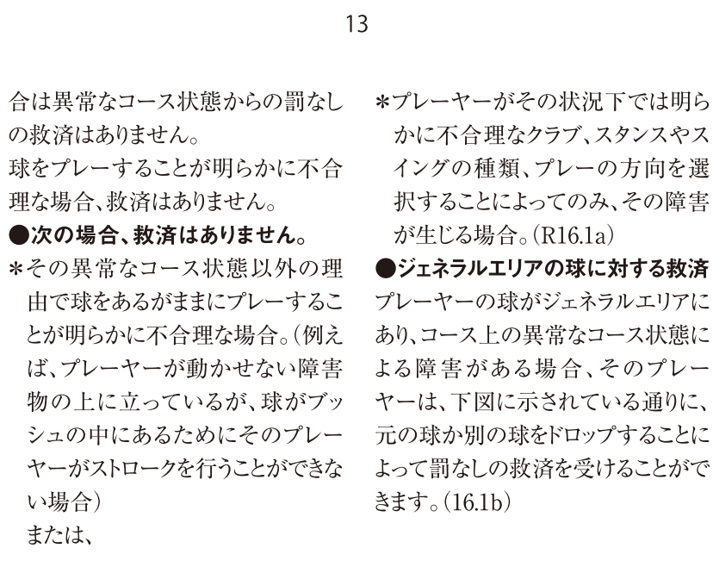
または、

＊プレーヤーがその状況下では明らかに不合理なクラブ、スタンスやスイングの種類、プレーの方向を選択することによってのみ、その障害が生じる場合。(R16.1a)

●ジェネラルエリアの球に対する救済

プレーヤーの球がジェネラルエリアにあり、コース上の異常なコース状態による障害がある場合、そのプレーヤーは、下図に示されている通りに、元の球か別の球をドロップすることによって罰なしの救済を受けることができます。(16.1b)

異常なコース状態からの救済



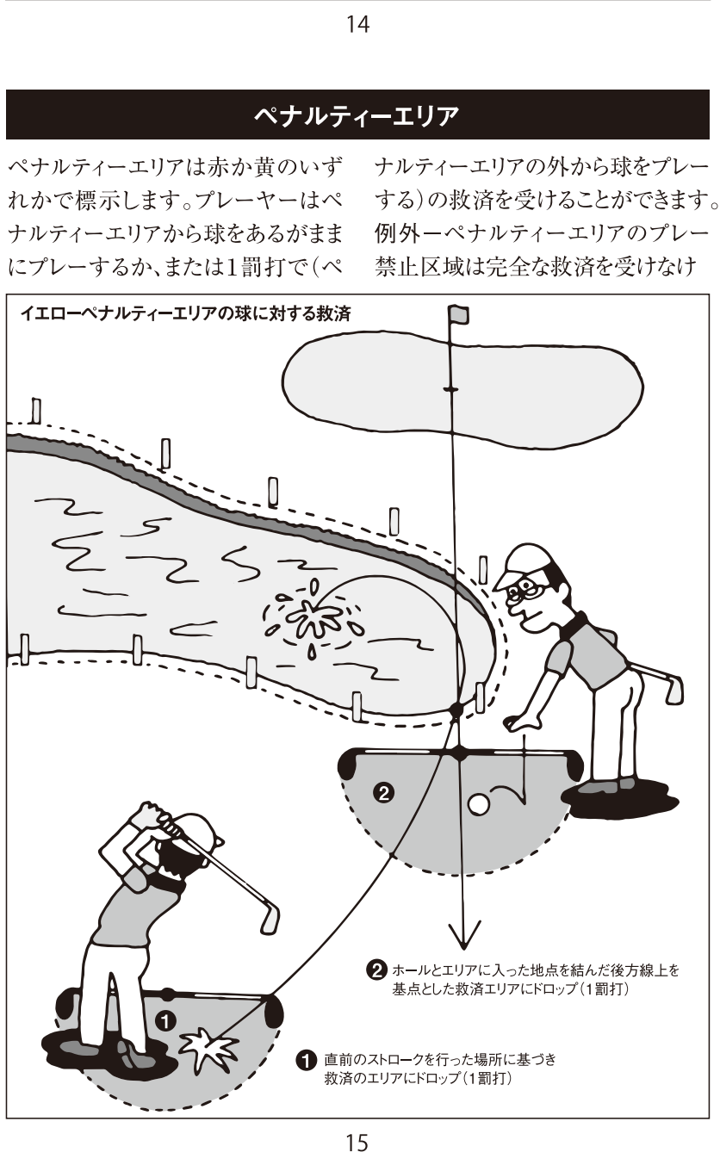
B1の救済のニアレストポイント
B1
B1に対する救済エリア
近い
遠い
B2
B2の救済のニアレストポイント
B2に対する救済エリア
カート道路にスタンスがかかる場合

ペナルティーエリア

ペナルティーエリアは赤か黄のいずれかで標示します。プレーヤーはペナルティーエリアから球をあるがままにプレーするか、または1罰打で(ペナルティーエリアの外から球をプレーする)の救済を受けることができます。

例外ーペナルティーエリアのプレー禁止区域は完全な救済を受けなければなりません。

イエローペナルティーエリアの球に対する救済



② ホールとエリアに入った地点を結んだ後方線上を基点とした救済エリアにドロップ(1罰打)

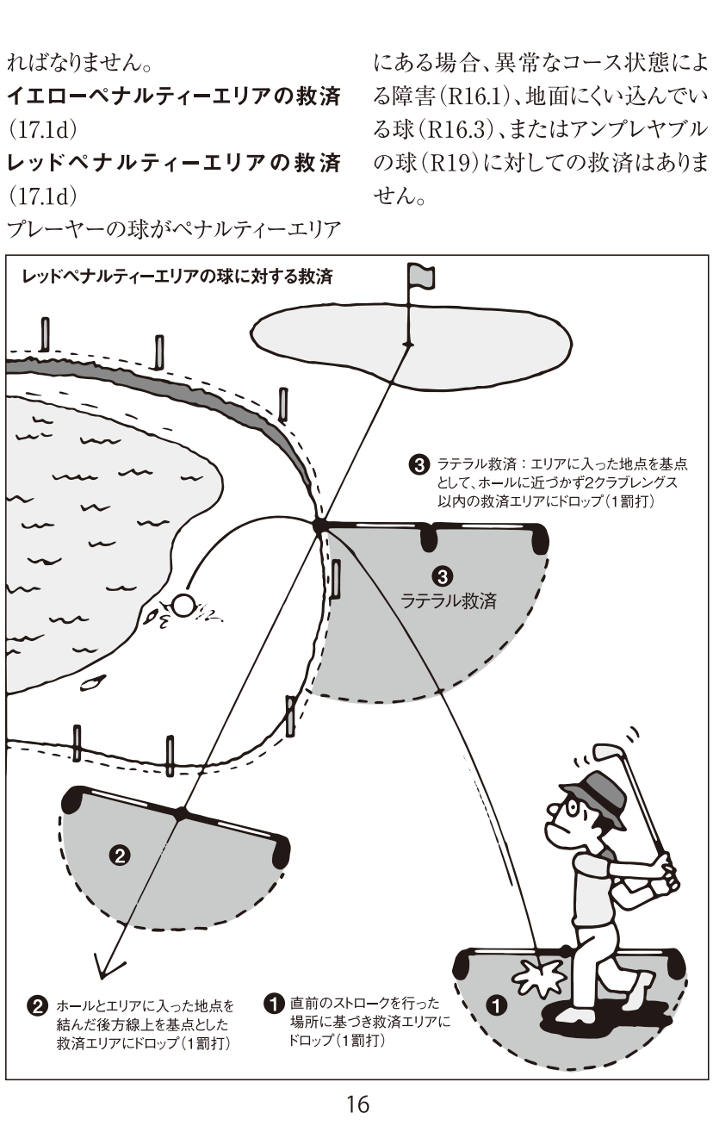
① 直前のストロークを行った場所に基づき救済のエリアにドロップ(1罰打)

イエローペナルティーエリアの救済(17.1d)

レッドペナルティーエリアの救済(17.1d)

プレーヤーの球がペナルティーエリアにある場合、異常なコース状態による障害(R16.1)、地面にくい込んでいる球(R16.3)、またはアンプレヤブルの球(R19)に対しての救済はありません。

レッドペナルティーエリアの球に対する救済



③ ラテラル救済：エリアに入った地点を基点として、ホールに近づかず2クラブレングス以内の救済エリアにドロップ(1罰打)

② ホールとエリアに入った地点を結んだ後方線上を基点とした救済エリアにドロップ(1罰打)

① 直前のストロークを行った場所に基づき救済エリアにドロップ(1罰打)

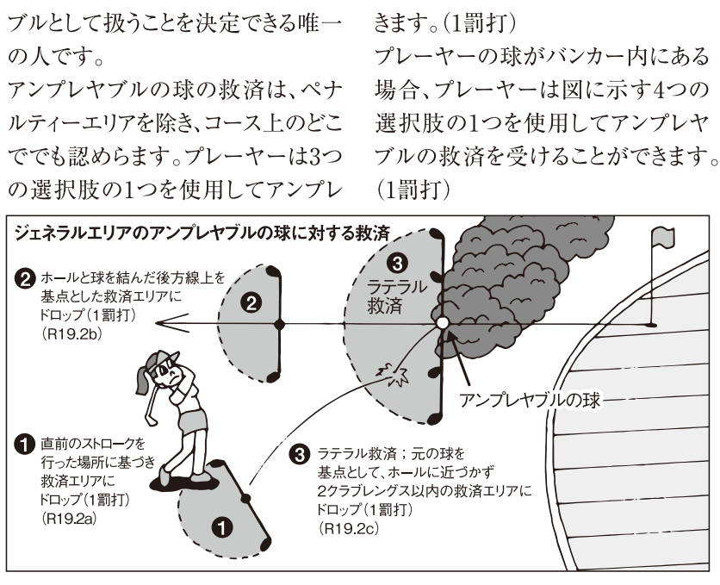
アンプレヤブル

プレーヤーは、自分の球をアンプレヤブルとして扱うことを決定できる唯一の人です。

アンプレヤブルの球の救済は、ペナルティーエリアを除き、コース上のどこででも認められます。プレーヤーは3つの選択肢の1つを使用してアンプレヤブルの球の救済を受けることができます。(1罰打)

プレーヤーの球がバンカー内にある場合、プレーヤーは図に示す4つの選択肢の1つを使用してアンプレヤブルの球の救済を受けることができます。(1罰打)

ジェネラルエリアのアンプレヤブルの球に対する救済

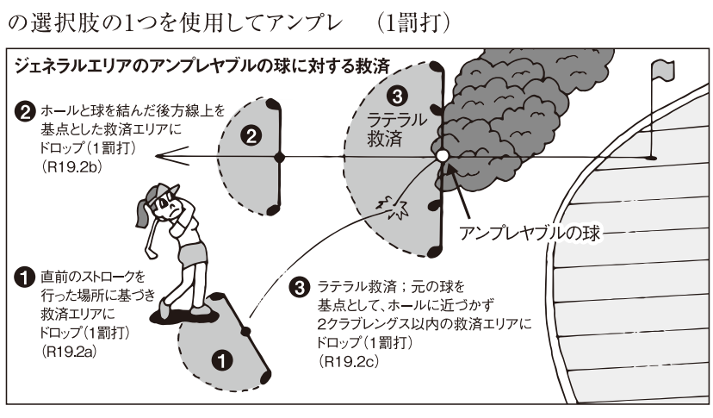


② ホールと球を結んだ後方線上を基点とした救済エリアにドロップ(1罰打)(R19.2b)

① 直前のストロークを行った場所に基づき救済エリアにドロップ(1罰打)(R19.2a)

③ ラテラル救済：元の球を基点として、ホールに近づかず2クラブレングス以内の救済エリアにドロップ(1罰打)(R19.2c)

バンカーのアンプレヤブルの球に対する救済



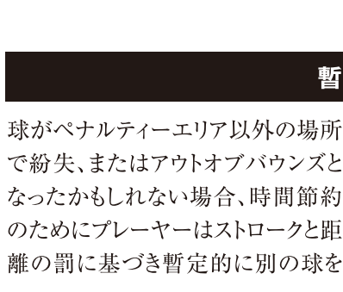
上図3つの救済エリア(1罰打)に加え、

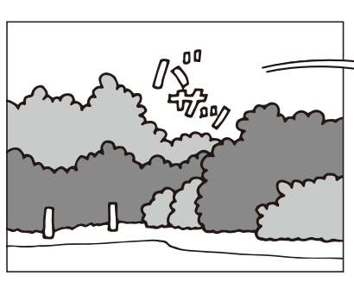
④ 2罰打でホールと元の球の箇所を結ぶ後方線上を基点とした救済エリアにドロップのいずれかを選択できます。

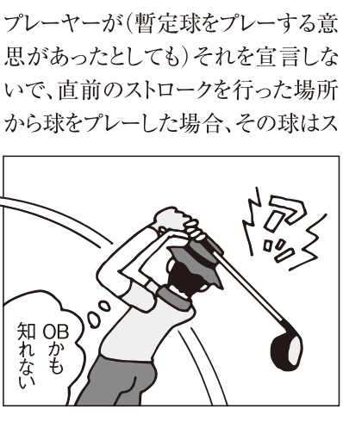
暫定球

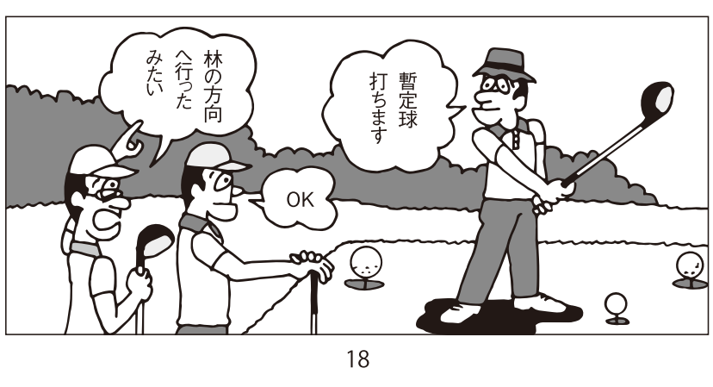
球がペナルティーエリア以外の場所で紛失、またはアウトオブバウンズとなったかもしれない場合、時間節約のためにプレーヤーはストロークと距離の罰に基づき暫定的に別の球をプレーすることができます。ストロークを行う前に、プレーヤーは暫定球をプレーすることを宣言しなければなりません。プレーヤーは「暫定球」という言葉か、プレーヤーが規則18.3に基づいて暫定的に球をプレーすることを示さなければなりません。

プレーヤーが(暫定球をプレーする意思があったとしても)それを宣言しないで、直前のストロークを行った場所から球をプレーした場合、その球はストロークと距離の罰のもとにそのプレーヤーのインプレーの球となります。









林の方向へ行ったみたい
暫定球打ちます
OK

●暫定球がインプレーの球となる場合

＊元の球がペナルティーエリア以外のコースで紛失した場合、またはアウトオブバウンズであった場合。

＊元の球があると推定する場所よりホールに近い箇所から暫定球をプレーした場合。

球に対する処置

元の箇所にリプレースすることを要求する規則に基づいて球を拾い上げる前に、プレーヤーはその箇所をマークしなければなりません。

●マークの方法としては

＊ボールマーカーを球の直後やすぐ近くに置く。または、

＊クラブを球の直後やすぐ近くの地面の上に留めておく。

プレーヤーが先にその箇所をマークせずにその球を拾い上げた場合、またはその箇所を誤った方法でマークした場合、またはその場所にボールマーカーを置いたままストロークを行った場合、そのプレーヤーは1罰打を受けます。

パッティンググリーンで拾い上げたプレーヤーの球は常にふくことができます。パッティンググリーン以外の場所で拾い上げたプレーヤーの球は、次の理由により拾い上げた場合を除き、常にふくことができます。

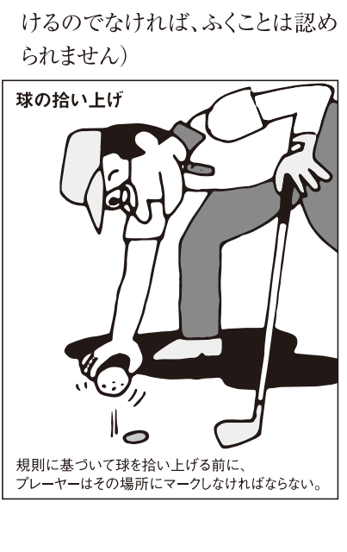
＊球が切れたか、ひびが入ったかを確かめるため。(ふくことは認められません)

＊球を確認するため。(確認のために必要な程度だけふくことは認められます)

＊球がプレーの障害となるため。(ふくことは認められません)

＊球が救済を認められる状態にあるかどうかを確かめるため。(プレーヤーが規則に基づいて救済を受けるのでなければ、ふくことは認められません)

球の拾い上げ



規則に基づいて球を拾い上げる前に、プレーヤーはその場所にマークしなければならない。

プレーヤーが認められていないのに拾い上げた球をふいた場合、そのプレーヤーは1罰打を受けます。

プレーヤーの球を拾い上げたり、動かした後にリプレースする場合、元の球を使用しなければなりません。

例外ー次の場合は別の球を使用することができます。

＊元の球を数秒以内に合理的な努力で取り戻すことができない場合。

＊元の球が切れたり、ひびが入った場合。

＊プレーの中断後にプレーを再開する場合。または、

＊元の球が別のプレーヤーによって誤球としてプレーされた場合。

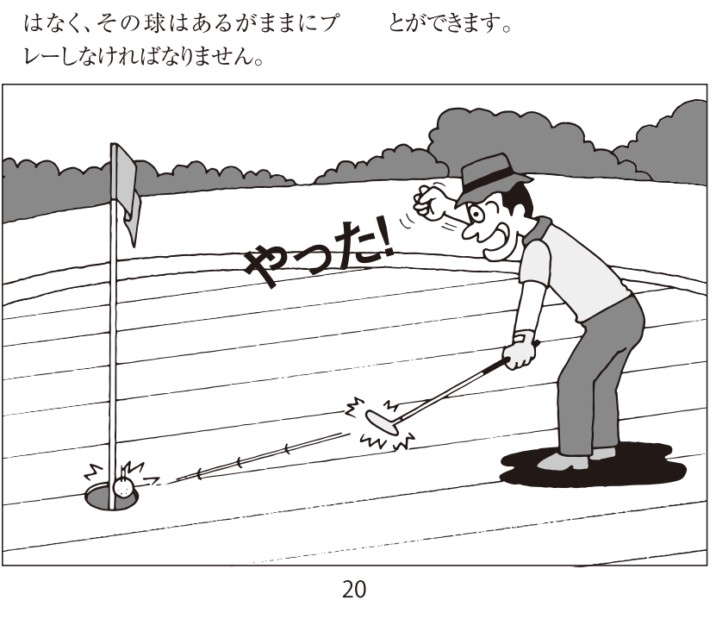
旗竿

●旗竿をホールに立てたままにする

プレーヤーが旗竿をホールに立てたままストロークを行い、動いているその球が旗竿に当たった場合、罰はなく、その球はあるがままにプレーしなければなりません。

●旗竿をホールから取り除くこと

プレーヤーは、ホールにある旗竿に当たらないようにその旗竿をホールから取り除いてストロークをすることができます。



各地区ゴルフ連盟

北海道ゴルフ連盟(HGA)
TEL.011-221-4564
www.hga.gr.jp

東北ゴルフ連盟(TGA)
TEL.022-225-5236
www.tga.gr.jp

関東ゴルフ連盟(KGA)
TEL.03-6278-0005
www.kga.gr.jp

中部ゴルフ連盟(CGA)
TEL.052-586-1345
www.cga.jp

中国ゴルフ連盟(CGU)
TEL.082-247-2719
www.cgu.gr.jp

四国ゴルフ連盟(SGU)
TEL.089-990-3260
www.sgu.gr.jp

九州ゴルフ連盟(GUK)
TEL.092-434-5501
www.guk.jp

順不同

無断複製転載を禁ず